

どんなことも乗り越えてゆける

**家族**になろうよ!





## 家族の中の人間関係と云えば

「夫婦関係」「親子関係」「兄弟関係」ということになりましたが、それらすべての関係がうまく行っている家庭は、まず無いのではないのでしょうか。「家族樹の秘密」という本がありますが、そこには、どんな家庭にも他人に知られたくない秘密があるものだと言われていました。あなたのご家庭はどうでしょうか？

ある時、米国の二人の心理学者が、長年うまくいっている夫婦の秘訣は何か？といった研究をしました。そこで分かった事は、長年うまく行っている夫婦を調べると、普通に思いつくような条件はあまり大

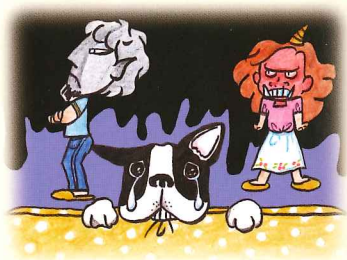
切なものではなかったということでした。それらは例えば、経済力がある、互いの性格や趣味が似ているといったことです。そして、上手くいく秘訣として分かったのは、どの夫婦も「問題を解決する力を持っていた」ということでした。ある歌の中に「……どんなことも越えてゆける家族になろうよ」という歌詞がありました。どうやら、そのような家庭となるためには、ぎこちなくても家族が一緒に問題に取り組み、問題を解決してゆく力をつける必要があります。

さて、**問題を解決する力をつけるためには**、「良い関係」をもっていることが何よりも大切です。良い関係とはどういうものでしょうか？それは、確かな絆（きずな）を持っているかどうかということ。絆とは、平たく言えば誰かとの「つながり」ということです。身近な者であっても人間関係が最近では希薄になった、とよく言われます。現代は人間同士、いや家族同士であっても互いに堅いきずなを結びにくいのです。

ところで絆の強さは感情と深い関係が

あります。ある時、不和の絶えない若い夫婦が相談に見えました。今にも離婚しそうな雰囲気です。ご主人が奥さんに持っている不満を聞いているうちに、奥さんは「赤鬼？」のようなイメージに心の中に映ってきました。奥さんは、いつも顔を赤くしてヒステリー気味に怒っていることから連想でしょう。次に、奥さんから話を聞いてみ

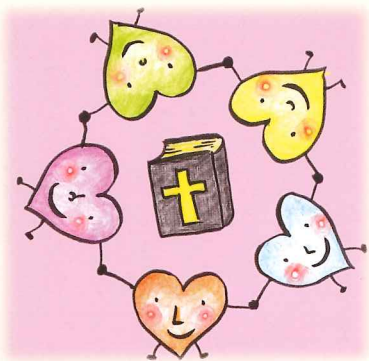
ますと、浮かんでくるご主人は「悪魔？」のようなイメージに映りました。ご主人の姿は冷徹すぎる、と言われるのです。ある時に奥さんに「何か話しをされたら、最後に感情を表すことばを入れてみてください」と言いました。例えば「あなたが早く家に帰ってくれないので、寂しい」とか「あなたがそう言っていると、私は悲しくなる」といったようにです。しばらくして、その奥さんが来られておっしゃったのは「取りあえず言われたよう





に、感情を表すことばを入れて話してみました。すると、主人はこう言ったのです。「そんなことだったら、もっと早く言ってくれば良かったのに」!?

そこで分かったことは、その奥さんは何度も言っているつもりでしたが、実際には自分の気持ちはほとんど相手に伝わっていなかったのです。そんなことがあって以来、言葉に感情的表現を入れて話すと、ずいぶん相手と心がつながるということを実感されたようです。つまり、私達が人と心がつながっていると実感するのは、「感情」の部分によるものが大きいのです。◀



② 人間関係はもとより、私たちはさまざまなつながりを持って生きていますが、**絆、つながり**

**りの中で最も大切なものは、**キリストを通して与えられる神様とのつながりだ、と聖書は教えています。天地万物を造り、いのちと愛の源である唯一の神様はあなたを愛し、見守っておられます。先が分らない人生も、キリストを通してまことの神様とのつながりを持つ時、大きな平安を覚え、魂に安らぎを見出します。かつて偉大な神学者は「人間は神様にある本当の平安を得るまで、魂は絶え間なく不安の中に置かれる」と言いました。もともと人間という言葉の意味は、新約聖書の書かれたことばであるギリシア語では、「顔を上に向けて生きる人」ということです。顔を上に向けてとは、キリストを通して神様の方を向いて生きる、ということなのです。家族の良い関係を育んでゆく力は、私たちを愛し、生かして下さっている神様から来るのです。

聖書は語ります。

「愛は神から出ているのです、

「神は愛です」、そして「愛は結びの帯

(きずな) として完全なものです」と。

教会にはいろいろな人たちが集っています。

それぞれが他では見つけられなかった平安を見出しています。それは、確かな神様との絆を体験したということです。あなたも教会にいらしてみませんか？魂に平安と安らぎを見出すお手伝いが出来ると思います。

